

# 乗務員 運用合理化

# 11月1日強行実施を粉砕!

# 日刊 動労千葉

80.11.16  
全国版  
No. 72

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六・公衆）三三二二七二〇七

## 三十五万人体制攻撃の水先案内人 「本部」反動分子

全国の動労組合員のみならず。動労千葉は、国鉄当局・「本部」反動分子が結託した「一一・一乗務員運用合理化」強行実施攻撃を、職場からの怒りの総決起をもって粉砕したことを報告します。いま、首都圏国電各線にかぎっていえば唯一総武・中央緩行線を走る、動労千葉、国鉄千葉の乗務員のみが乗務員運用合理化を許さず、従来からの闘いによってかちとった労働条件を確保しているのです。この現実のなかに誰が国鉄労働者の利益と闘いを守る者であるのか、誰が国鉄労働者を裏切り闘いと利益を売り渡す者であるのか、より鮮明になっていきます。

### 国鉄労働者を売り渡す 「本部」反動分子

すでに本紙で明らかにしてきたように、乗務員運用合理化攻撃は、国鉄三五万人体制へむけた「五五・一〇」につづく第二の攻撃であり、その攻撃内容は、「一五六・一〇」までに全国化せんとするものである以上、全国的闘争課題として反撃に起ち上がらねばなりません。

それは三河島事故とマル生闘争勝利を教訓化し船橋事故を契機とした、反合・運転保安闘争と職場支配権の奪還をかけた職場での血のにじむような闘いによってかちとってきた既得権を全て剥奪し、一九六九年マル生時代の劣悪な労働条件にひきもどし、国鉄労働運動の単一的拠点「運転職場の中軸をになつてきた乗務員の闘いを圧殺し解体せんとする、断じて黙過することのできない攻撃であるからです。

この恐るべき攻撃にともあろくに、動労「本部」反動分子は全国の先陣を切つて「五五・一〇」とこみに動労東京地本松崎委員長の名をもって屈服し裏切り妥結をしたのです。しかも断じて許せないことには、「千葉にも乗務員運用合理化一一月一日強行実施させること」「動労千葉の組織力・戦闘力を破壊すること」を国鉄当局に要求し妥結条件にしたのであります。そればかりではありません。動労千葉が職場からの大衆的決起をもって一一月一日強行実施を打ち破るやいなや、「千葉はなせ一一月一日実施をしないのか」と当局に泣きつくにまでいたっているのです。

このことは、単に当局への屈服・裏切りという次元の問題だけでなく「本部」反動分子は、国

鉄三五万人体制を前提としたセクト的延命のために国鉄労働者を売り渡す、当局の武装親衛隊「合理化の尖兵として自らを位置づけたといえます。

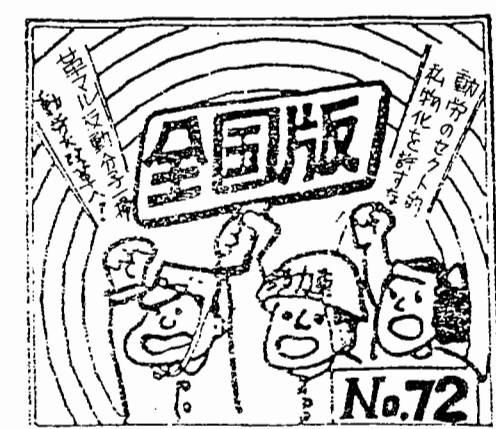
### 運用合理化阻止！動労大改革へ

全国の動労組合員のみならず。  
「本部」反動分子による乗務員運用合理化の裏切りによって、合理化の尖兵への純化はとめどもなく進行しています。それは全国大会（名古屋）での大胆な妥協「路線の必然的結果であるのです。今や動労「本部」反動分子を一掃し戦闘的に改革されねばなりません。

「本部」反動分子は、乗務員運用合理化にたいし昨年九月、当局提案前に率先して協力することを一路線「化」してきました。その理由は新幹線への組織対策のためだといつて……。  
しかし現実には、乗務員運用合理化に率先協力をしたことは、一一月一日、提案された東北・上越新幹線の大合理化計画を暗黙のうちに了解したことを意味づけています。

「合理化絶対反対を空語的に叫ぶことは組織破壊」「もうストライキではモノが取れる時代ではない」と公言し、組合員の闘いへの意欲をおさえつけ、セクト的暴力をもって職場の要求を圧殺し、自らは当局とのゴルフにうつつをぬかず運動を一積極攻撃型反合闘争」と名をかぶせても、職場を守ることも、労働者の要求をかちとることもできるはずはありません。

乗務員運用合理化阻止と、「本部」反動分子一掃「動労大改革」へむけて動労千葉と共に決起しよう。



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ!